



優 秀 賞



第37回全国都市緑化ひろしまフェア ひろしま はなのわ 2020

「ひろしま百景花壇」
やまの景・雄橋・三段峡
写真撮影：
studio LUCUSS 古田 麗

株式会社ブレック研究所
棚瀬新一郎・山口朋浩
株式会社 LAT 環境クリエイト
青木 晋・森本 直
株式会社 TONZAKO デザイン
松崎 淳・高瀬佐和子

全国都市緑化ひろしまフェアは、広島県及び全 23 市町の主催による全国初のフェアであり、中央公園旧広島市民球場跡地を活用したメイン会場整備と、主催者である各自治体イベントの緑の連携強化を図り、全県展開により開催されたものである。

「広島の地域資源を活用して、県内全域で回遊と交流を生み出す景観演出」

メイン会場では、世界に誇る広島風景を、「ひろしま百景花壇」として花とモザイカルチャーで精細に再現した。併せて県内自治体出展としてお祭りやイベントなどを表現した「ひろしまお祭りガーデン」を配し、常時県内各地のスポットイベントの情報発信を行うことで、県内各地への来場者の回遊と交流を促す重層的な展開を行った。

作品概要

作品名——「第37回全国都市緑化ひろしまフェア
ひろしま はなのわ 2020」メイン会場
所在地——広島県広島市中区
発注——広島市、第37回全国都市緑化ひろしまフェア実行委員会
設計——PREC・LAT 共同企業体
設計協力——基本計画・実施計画・メイン会場基本実施設計・監理：
株式会社 TONZAKO デザイン
基本計画・実施計画——株式会社グリーンダイナミクス・TSP 太陽株式会社
株式会社アシスト・株式会社中国四国博覧堂
施工——はなのわ2020推進共同企業体
設計期間——2018年6月～2020年3月
施工期間——2019年8月～2020年3月

作品評

この事業は、広島県及び県内 23 自治体すべてが主催者となり、全県展開を試みた都市緑化フェアである。応募者は、会場整備、運営、交通・輸送、展示・出店、行催事、観客誘致・広報宣伝、協働推進等を担う JV の一員として事業にかかわった。
県内各地で、「はなのわ会議」を開催して事前準備を行うとともに、緑化フェア終了後を見据えた全県的な花とみどり事業の展開を目指した。
広島海から山までの風景を再現する「ひろしま百景」、主催者である広島県及び県内 23 市町による「お祭りガーデン」等を展開した。特に花については、計画段階での生産者との情報共有による安定供給、植栽段階・維持管理段階でのきめ細かな指導によって花空間の質を高め、維持することができた。さらに花の植栽技術の向上が図られ、来場者の中に花の需要が高まって花産業の振興をもたらす効果があった。
平成30年の西日本豪雨災害、令和2年の新型コロナウイルス感染症拡大という2度にわたる困難を乗り越えて為された取り組みに対して、労をねぎらいたい。



①「ひろしま百景花壇」やまの景・イザナミノミコト 国内最大級多肉植物モザイカルチャー ②南北の景観軸「未来に向けた思い出年表」
③④「ひろしま百景花壇」さとの景・花田植・棚田 ⑤⑥外周花壇「はなのわ」イングリッシュボーダーミックスによる演出
⑦エントランスロゴ「HANANOWA」 ⑧⑨⑩「ひろしま百景花壇」うみの景・まちの景

「都市に刻まれた記憶を呼び起こす」

旧広島市民球場跡地は、戦後の復興において広島県民の心の支えとなってきた場所である。この旧球場のスタンド形状のアースワークに、かつて広島カープを応援した人々の賑わいの姿を彷彿させるイングリッシュボーダーガーデンの花植栽を施すことで、「はなのわ」と題した外周立体花壇を創出した。

一方、丹下健三がかつて計画した平和記念公園からつながる南北の景観軸創出を会場内に試み、「未来に向けた思い出年表」として、参加型の短冊メッセージの展示を行い、広島復興と戦後の緑化の歴史や未来への希望を体感できる場とした。

「花とモザイカルチャーで風景を描き出す」

「はなのわ」は長さ 500m を超え、イングリッシュボーダーミックス方式を基本として、日本庭園の見え隠れ、遮りなどの風景演出手法を加えることで、奥行き感のある景観演出を行った。「ひろしま百景花壇」では、県内有数の景勝地である「雄橋」や、中国山地に所縁のある伊邪那美命（イザナミノミコト）をモチーフとして、約 1 万 5 千鉢の多肉植物を利用した国内最大級のモザイカルチャーを展開した。緑化フェアのメイン会場としての話題性や緑化技術を普及啓発する場として、来場者に強いインパクトを与える仕掛けとした。